

第 1 回館山市議会定例会会議録

(第 5 号)

1 平成4年3月16日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 22名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	9番 脇田 安保
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	17番 鈴木 忠夫
18番 日下 君敏	20番 生稻 陞
21番 神田 守隆	22番 福原 勳
24番 石井 輝久	25番 流山源次郎
26番 辻田 実	28番 飯田 義男

1 欠席議員 6名

8番 永井 龍平	10番 庄司二三男
16番 鈴木 勝美	19番 川名 正二
23番 石井 昌治	27番 横溝 功

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 渡辺 弘	市長公室長 佐藤 輝雄
総務部長 二通 英雄	民生部長 佐藤 澄雄
経済部長 脇田 元始	建設部長 伊東 衛
水道課長 鈴木 信一	教育委員会 会長 福原 修

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 土橋 康彦
書記 鈴木 哲	書記 鈴木 修一
書記 加藤 浩一	

1 議事日程（第5号）

平成4年3月16日午前10時開議

日程第1	議案第1号	平成4年度館山市一般会計予算
	議案第2号	平成4年度館山市国民健康保険特別会計予算
	議案第3号	平成4年度館山市老人保健特別会計予算
	議案第4号	平成4年度館山市ユースホステル特別会計予算
	議案第5号	平成4年度館山市学童災害共済事業特別会計予算
	議案第6号	平成4年度館山市下水道事業特別会計予算
	議案第7号	平成4年度館山市水道事業特別会計予算
	議案第8号	平成4年度館山市国民宿舎事業特別会計予算

開 議 午前10時05分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数22名、これより第1回市議会定例会第5日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

発言の取り消し

◎議長（福原 勤君） この際お諮りいたします。

辻田議員から去る12日の議案質疑の発言中、憲法の精神云々に関する部分を取り消したいとの申し出がありました。この申し出のとおり発言取り消しを許可することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。

よって、発言取り消しを許可することに決しました。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第1、議案第1号乃至議案第8号平成4年度一般会計及び各特別会計予算を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勲君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。なお、発言の際はページをお示しくださるようお願いいたします。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 新年度の予算案について、既に通告をいたしました6点についてお尋ねをいたします。私の質問は主に議案書に沿って行っていきたいと思います。

まず、議案書の27ページであります。まず第1点は、歳入の中から第7款 国有提供施設等所在市町村助成交付金 7,512万 2,000円についてお尋ねをいたします。海上自衛隊館山基地にかかわる固定資産税にかわる措置として交付されるいわゆる基地交付金であります。果たして固定資産税相当分が本当に交付されているのでありましょくか。この交付額の算定の根拠について御説明をいただきたいと思ひます。また、これが純然たる民間施設とすれば当然固定資産税や都市計画税が課税されることになりますが、民間施設としての場合と比較してどの程度になるのか、御説明をいただきたいと思ひます。

次に、ソ連が崩壊し、米ソの冷戦という戦後の国際政治の根本的な対立がなくなったという新しい世界のもとで、日ソ関係も潜在的同盟関係などと評価される時代になりました。海上自衛隊館山基地は、こうした世界の情勢の大きな変化のもとで、その存在意義も根本から問い直すことが必要ではないかと思ひますが、どのようにお考えでありましょくか。例えば、木更津市では、市の基本計画の中では港湾の整備とあわせ基地の移転、跡地の有効活用の方角についての検討を行い、21世紀における新たな発展を準備すると基地の移転、跡地の有効利用について明確に位置づけられております。木更津市自身の方角として基地の移転を打ち出しているわけでありましょく。庄司市長は館山の基地についてどのようにお考えになっているのでありましょくか、御説明をいただきたいと思ひます。

次に、30ページであります。手数料のうち、諸証明手数料 378万 2,000円

についてお尋ねをいたします。丸山町で新年度から年金証明手数料の無料化を実施するということが報道されました。安房郡市でも新年度からかなりの市町村で実施するのではないかと思うのですが、いかがですか。また、県内29市の中ではもうほとんどの市で実施ではないかと思うのでありますが、これらの実施状況について把握をされておりますか、御説明をいただきたいと思います。また、そうした中で、館山市としては4月からどのような対応をなされるお考えでありますか、あわせて御説明をいただきたいと思います。

次に、98ページをお開きいただきたいと思います。じん芥処理費の中の第14節自動車借上料 136万 8,000円についてであります。市の処理場の当面の最大の問題点は、紙ごみがふえたために焼却炉の温度が高くなり過ぎて効率的に焼却処分ができないということでありました。ごみの総量を減らすとともに、とりわけ紙ごみを減らすことが急務であったわけでありました。このため、市は紙ごみの回収システムとして古紙回収業者の協力を得て月1乃至2回、市内のごみステーションを利用して回収業者が回収をしていくという方式に取り組んでまいりました。他の市町村が補助金を出して集団回収を進めているのとは違った、いわば館山方式とも言うべき独創的な方式だったと思いますが、この実績はどのようなものでありましょくか。十分に効果的であったと考えておりますか。また、この方式を今後とも育てていくとすれば、問題点についてはどのように把握しておりますか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に 116ページであります。商工費中の公有財産購入費として 6,364万 5,000円に関してお尋ねをいたします。議案書の説明欄では、館山インダストリアルパーク用地購入費とされております。このインダストリアルパークは市の事業ではなく、県の事業として行われると聞いていましたが、なぜ市が用地を購入することになるのでありましょくか。予算説明書の13ページによりますと、工業団地の開発予定区域内の大規模土地所有者から関連用地を購入するとされておりますが、これでは内容がよくわかりませんので、御説明をいただきたいと思います。

また、この事業はこれまで県の事業として行われるということで、市の財

政負担はないということでありましたが、こうしたことを見ますとどうもそうではないのではないかと考えざるを得ません。例えば、進入路にかかわるものなどの建設費の負担などは市にはないのでありましょくか。この事業に関連して、実際に市の財政負担があるのだとすればどれくらいのものが出てくるのか、今後の財政負担について御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、125ページであります。都市計画総務費に関連してお尋ねをいたします。13日に都市計画法及び建築基準法の一部改正に関する法案が閣議決定され、この通常国会に提案されるとのことです。法改正の中では、都市計画法の用途地域の指定がない地域においても、市町村で規制をすることができるといふ趣旨の改正があると報道されております。館山市は、リゾートマンションの規制に関する指導要綱や宅地開発に関する指導要綱、さらにまた景観に関する指導要綱、ゴルフ場に関する指導指針など、市独自に指導要綱を持ってさまざまな開発に対処してまいりましたが、土地基本法が制定され、市町村の責任が明示されたとはいえ、これを直接の根拠として条例規制することに対しては法的に難しい問題があったことと思います。そのことは、いまだに懸案であったリゾートマンション規制の条例が提案されていないことから察せられます。今回の法改正は、従来の市の権限を抜本的に強化し、市の規制に法的な根拠を与えるものだとすれば、大変に重要なことになるかと思ひます。この法改正の動向についてどのように考えておりますか、市の中高層建築物規制に関する条例についてどのように考えているのか、御説明をいただきたいと思ひます。

次に、135ページであります。消防費のうち、常備消防費4億9,243万1,000円についてお尋ねをいたします。13日の閣議決定で、国家公務員の週休2日制について6月を超えない期間に実施するという方針を決定したとの報道がされました。消防職員は他の公務員とは違つた特別の勤務体制になっておりますが、こうした職員についても週40時間制を前提とした勤務体制に改善することが求められます。24時間いつでも出勤できる態勢にしなければなりませんから、当然労働時間の短縮は人員の増加ということなしにはできな

いことと思いますが、こうした人員の増を見込んで週休2日制の実施体制を検討しておりますか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、消防署の役割は当然火事を消すということですが、同時に救急車による緊急搬送という役割があります。平成2年度の実績では、予算説明書の42ページによりますと館山市内からの搬送件数は1,962回ということで、それらが人命にかかわることとすれば大変な出動件数だと思います。急病患者の救命率向上の上で、救急隊員の応急措置の範囲拡大は長年の懸案事項でした。これまでの人工呼吸等の比較的軽易なものに限られていた応急措置が91年度から基準を2段階に分けて拡大をいたしました。1つは、医療機器を使用して病状の把握や自動式心マッサージ等を行うことであり、もう一つは特に高度な応急措置を行うため救急救命士の制度が創設され、心肺停止状態に陥った傷病者の蘇生等を行うこととなります。これらのことを実行するために、いかに確実かつ敏速に対応できる隊員を養成するかが課題であります。第1段階の軽易の応急措置ができるようにいつまでに教育訓練を終わらせるのか、さらにまた高度な救急業務をこなす救急救命士の育成はどのように計画しているのか、御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

まず第1点、予算の算定根拠についてでございますが、毎年度国有提供施設等所在市町村助成交付金に関する法律、これに基づきまして当該年の3月31日現在において国有財産台帳に登録されました土地、建物及び工作物の価格を用い、国の予算の範囲内で交付されるところでございます。したがって、前年度と同額を予算計上したものでございます。

また、民間施設が所在したと仮定しての比較はどうかとの御質問でございますが、設定する条件により試算の結果が大きく異なり、一概に比較することは難しいところでございますので、御理解を賜りたいと存じます。

次に、小さな第2点目、冷戦後の国際情勢と自衛隊基地についての御質問

でございますが、ソ連の崩壊により世界を二分してきた冷戦構造に終止符が打たれようとしておりまして、新しい世界平和の秩序が模索されていると認識しております。自衛隊基地につきましては、我が国の平和と独立を守り、国の安全を確保するために必要と考えております。

なお、国の防衛体制について、市長としてこれ以上の見解は差し控えさせていただきます。

次に、大きな第2、年金証明手数料の無料化の実施状況と館山市の対応はどうかとの御質問でございますが、無料化につきましては現時点において千葉県下29市のうち20市が実施し、近隣市町村では今実施しておりません。当市におきましては、各種証明手数料の受益者負担の原則や、他の手数料との関係もございますので、低所得者等に関しましては減免措置で対応してまいりましたが、本年度は引き続き検討課題としてまいりたいと考えております。

次に、じん芥処理費についての問題でございます。紙ごみの現状と新聞等の回収についての御質問でございますが、平成2年度から古紙等の回収を実施してまいりましたが、平成3年度では前年度に比べ40%増の約700トンの回収が見込まれております。ごみの減量、再資源化に対する意識が定着しつつございます。回収方法といたしましては、PTA、子供会等による集団回収の方法もございますが、住民の利便性を考えますと現在の回収システムが望ましいと考えております。

今後も、引き続き住民、古紙回収業者との協力をいただきながら紙ごみの再資源化に努めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第4の小さな第1点目、館山インダストリアルパークの用地を市で購入するののかとの御質問でございますが、計画区域内の用地は事業主体であります千葉県企業庁が購入するものでございます。今回市が購入する予定のものは、計画区域内の大規模地権者が所有する区域外の土地でございます。用地を提供する条件として合わせて購入してほしいとの要望があり、企業庁と協議いたしました結果、現時点ではこの事業を推進するため市が購入するものでございます。

購入後の土地につきましては、企業庁と引き続き協議しながら代替地等へ

の活用を図ってまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、館山市の財政負担は今後どのくらいになるかとの御質問でございますが、本事業は千葉県企業庁が事業主体でございますので、基本的には市が負担するものはございません。また、進入路は市道として整備する予定となっておりますが、その経費につきましては実質的な負担はございません。しかしながら、事業を推進するための若干の関連経費、事業完了後の道路等公共施設の維持管理費は生じてまいります。

次に、大きな第5、都市計画法及び建築基準法の改定の動向と中高層建築物の規制条例についての御質問でございますが、都市計画法及び建築基準法の改正案につきまして一部報道されているようですが、県から詳しい情報は得ておりません。館山市で検討しております要綱による中高層建築物の規制につきましては、法改正を待って県の指導を受けながら進めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第6、消防費についての小さな第1点目、消防職員の労働時間の現状と週休2日制の実施はどのように検討しているかとの御質問でございますが、安房郡市広域市町村圏事務組合によりますと、隔日勤務であります消防職員の勤務時間は現在週46時間体制であります。法律の改正によりまして平成4年4月1日から週44時間体制を実施すべく準備を進めているとのことでございます。週休2日制につきましては、今後の検討課題とのことでございます。

次に、小さな第2点目、救急救命士の養成はどのように検討されているかとの御質問でございますが、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部によりますと、現段階において救急救命士の養成につきましては今後の課題であるとのことでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） まず第1点の自衛隊の館山基地の関係でありますけれども、御答弁によりますとこの自衛隊基地の交付金算定の根拠はどうもはっきりいたしませんけれども、民間の事業体と比較した場合ということで、

出ないと。それはそうですね、どんなような民間の事業体になるかわからな
きゃわかりませんから。しかし、問題は例えば土地ですね。これはどのよう
な民間事業体が出ようと、土地ははっきりそれは変わらないわけですから、
あれだけの面積を持っている土地であります。7,512万2,000円という、こ
ういう額が具体的に固定資産税にかわる措置として出ているわけですね。こ
のうち、恐らく算定上は土地にかかわるもの、これがかかなり含まれているの
ではないかなと思うのです。そういたしますと、実際この価格からこの自衛
隊の館山基地についての評価——土地のですね、坪当たりの評価の単価とい
うのはどれくらいにされているのか。周辺の評価に比べてどうなのかという
ことが、比べてみればこれはわかるわけですね。当然難しい話ではないと思
うのです。大体館山基地の坪単価の評価、これがどういうふうにされておる
というふうに理解していくのか、お聞かせをいただきたい。

それと、都市計画税、館山市の場合にはこれ課税をしているわけですから、
当然この都市計画税、7,512万2,000円という、これは100分の1.4の固定
資産税の税率を当てはめて逆算をすると、都市計画税は大体1,600万ぐら
いは民間の施設ならば全くこれを正しいという数字としても出てくるのでは
ないか。ということは、都市計画税相当分というのは民間施設ならば当然徴収
されるべきものが基地の場合には徴収されていない——今の制度、今の仕組
みの中では館山市には入っていない、こういうふうに理解していいかどうか
ということですね。

それから、自衛隊基地で、防衛政策については市長は発言することは控え
たいということで、特に言えないというお話でございました。私、防衛政策
のことを聞いているんじゃないんですよ。館山の自衛隊基地についてどう考
えてますかということなんです。具体的に、木更津市では市の方針として木
更津基地の移転——今の市長さんは木更津基地の指令をやっていたそういう
経歴の方ですけども、その方が選挙のときにも自衛隊の基地については移
転をすると選挙で公約をしているんです。調べてみたら、木更津市の2000年
までの10カ年計画ですか、この中でも基地の移転と、明確に基地の問題につ
いては市の方針が決まっているんですね。跡地を有効に利用していくための

検討を進めていくんだと書かれているんですよ。館山については、何にもそういう基地に対する対応というものが無いわけです。私は、だから今までと違う大きな世界の情勢の変化、動きの中で基地の問題をどうするかというのが新しい意味で重要になってきている。だからこそ、木更津がそういう問題を今度の情勢の変化によって書いたというのではなくて、前から書いているんですね、そういうふうに決めているんです。

ですから、そういう点では館山が基地の問題について何も言う言葉を持っていないというのは、それは一つの行き方かもしれませんが、やはり問題があるんじゃないか。この基地の問題について、館山市としてどう考えているのかということは、これは市長としてぜひ物を言っていくということが必要じゃないか。それについて防衛上の政策からどうだこうだというのは、それは国の政策、国の意向、国の意見というものが当然出てくるでしょうけれども、館山市としてはどうなのかということをはっきりさせる必要があるんじゃないかなと思うんです。そういう点で、この木更津の行き方も見ながら館山市としてこの基地のあり方について物を言っていく、考えていく、こういうことは言えませんか。いかがですか。

次に、手数料のことでありますけれども、先ほどのお話では近隣では年金証明手数料の無料化をしているところはないというお話でありましたけれども、新聞の報道によりますと丸山町が4月から実施ということで、そういうことで新年度の予算も提案されているようですし、私が聞き及ぶところではこの近隣でもそうした動きが町村レベルであるというふうに聞いております。そういう中で、県下の29市の中で既に20市も実施をしている。恐らく、新年度からさらにこの29市の中でも実施をするというところがふえるんじゃないかなと。といたしますと、4月の段階で県下29市の中で数えるほどの自治体——年金証明手数料を徴収している市の1つが館山市になる。安房郡内でもそういう点ではかなりの自治体の実施するということになりますと、いかにも館山市だけがこういうものを取っているという印象が住民の中でも当然持たれて当たり前なんですよ。

これは検討課題とするということでありましたけれども、この検討課題と

いうのはいつまで検討するのか。本当にそういう近隣の状況も見て、早い時期にやはりしなけりゃならないんじゃないかなと思うんです。現在の手数料条例の第7条の第2項、官公署において事務上必要とするものについては手数料を徴収しないことができるという規定がありますね。これを実施すれば4月からということでも、条例の手続なりそういうものを経ずして無料化の措置というのは実施できるんじゃないでしょうか。その辺いかがお考えですか。

次に、じん芥処理費の関係であります。40%紙ごみの回収がふえて700トン回収が見込まれると。これは大変な立派な実績だろうというふうに思うんです。まさに破竹の勢いで、去年が500トンですから、また700トンということで大変大きな実績をおさめてきているなという感じがするんですが、今年度の予算を見ますと、これに関する予算措置された自動車の借上料、これ業者が回収するときのガソリン代なりを助成しようじゃないかという趣旨だろうと思うんですが、136万8,000円。これ昨年と同額ですから、特に新しい施策というのは、今年度はさらにということでは組まれていないんじゃないかなと思うんです。そうすると、この700トンというものについては新年度の中ではさらにふやしていこうという意欲がこの予算からはちょっと見られないんですよ、予算の中からは。ということは、逆に言いますと700トンになれば上できだと、こういうふうにお考えになっているのかなと思うんです。市の資料によりますと、大体館山市内では新聞、雑誌類で回収可能なのは2,000トンであるという、こういう数字がかつての市の広報の中で述べられております。こういう水準から見ますと、いや、まだまだだなという気はするんです。しかし、この実績は大したものですよ。市民1世帯当たりにならしますと30キロ超えますからね。大変な実績で、近隣なり県下の中でこんなに立派に紙集めたところはないですけども、しかしそれでもまだまだ回収という点から見れば、まだ端緒的な成果だというふうに思うんですがね。

そこでお尋ねしたい点は、この700トンというこの回収量というのは、経済的な効果という面から見直しますと、どれくらいの効果があったというふうに考えられておるのか、御説明をいただきたいと思うんです。136万8,0

00円という市がお金を使って約 700トンからの紙ごみを回収したというのは、極めて経済的な効率性の高い仕事だったと思うんですけども、これによって——大体私が試算をすると紙ごみの焼却費用、あるいは回収費用、こういうものが不要になった、700トンによってですね。これによって達成された経済的な効果、それからこの紙ごみが再資源として古紙として売られた費用、売られたということでその販売価格、こういうものが直接の経済効果として出てくるかと思うんですが、ざっと考えて 1,000万から 1,500～600万になるんじゃないか——いろんな計算の仕方がありますけれども——ではないかなと思うのですが、トン当たりの館山市のごみの焼却費用ですとか回収費用ですとか、そういうものを勘案して計算すれば、大体の経済効果がどれくらいあったのかということが算定できるんじゃないかと思いますが、どのように受けとめておりますか、お聞かせいただきたいと思います。

それと、私は 700トンという成果をさらに大きなものにしていくという点では、業者の協力はもちろん、と同時に市民の一層の協力を仰いでいくということがやはりポイントだと思うんです。集団回収というものを、県が補助金を出して集団回収事業を応援しますよということが始まりましたけれども、そのねらいとするところも市民の協力を、リサイクルについての意識をどう広げ、拡大していくかということだろうと思うのです。そこで、実際に私が考えるところでは 1,000万を超えるような経済効果が出ているかと思うので、こうした実績について市民の中に、おかげさまでこんなに市役所なり非常に経済的に効果が出ました、税金の節約ができましたということで住民に知らせていくと同時に、やはりこういうことをさらに進めるために住民に、例えば町内会単位で一定の——今県の事業ではキロ当たり 3 円ですか、集団回収の場合には補助金を出しますよというようなことがありますけれども、

700トンだとしますと、単純に計算しても 200万ぐらいの、紙ごみの回収をやりますと 700トン相当ですと住民に還元があるんですよ。そういうようなことで、町内会単位とか、そういうところにさらに一定の還元もして、こうした意識の醸成を図っていくということで、200万ぐらいのお金を使っても紙ごみの回収が例えばさらに 300トン、400トンとふえていくんならば、十

分これは見合いのできることじゃないかなと思うんですが、そういうことも含めて紙ごみの回収にもう一步突っ込んだらどうかと思うんですが、いかがお考えですか。

次に、インダストリアルパークの問題であります。基本的には市にかかる費用がないということで、一応このことについては了解をいたします。

それから、都市計画費の件についても、改正法の動向も見ながら、県の指導も得て中高層建築の条例の規制ということで検討していくということでございますから、これも一応質疑はこれで終わります。

それから、消防費に関しての問題でありますけれども、早く週44時間体制に4月1日から入って、40時間体制への移行はさらに先だというようにお話を、人をふやさなきゃこれできませんから、やはりお金にかかわる問題であります。若い人がやはり救急事業の中で大変重要です。若い人の職場がないというようなことも一方であるわけですから、むしろ積極的に館山市あたりがこの問題についてはリーダーをとりながら、消防職員の労働条件の改善ということに取り組んだらどうかと思うんです。それが直接住民の安全を守ることにつながるお金ですから、非常に重要なことじゃないかなと。今後の検討課題だというだけじゃなくて、非常に近い時期にこれに踏み出そうじゃないかというようなことで検討いただきたいと思うんですが、いかがでありますか。

そして、特に人員をふやすという問題では、救急救命士の問題ということで救急体制の充実の問題ですね。これは、今年度から救急業務ということで救急車の応急処置の範囲が拡大になった。今までできないこともできるようになった。私の母も、東京でありますけれども、脳卒中で倒れまして、それで直ちに救急車が来て、その場で即、口の中の異物がないかどうか、全部吐き出せるとか、それからそれを全部吸い取ったりとか、非常に的確な対応を消防署の方にしていただいたという記憶があるわけです。本当に、鴨川の第3次医療機関である亀田病院まで行くのに30分はやっぱりどういうふうに見てもかかるわけですから。ところが救急医療の分野では3分とか5分だとか、そういう時間の中でどういう処置ができるかということが決定的な意味を持

つ場合が少なくないわけですね。ですから、救急車で駆けつけたこの消防署の職員がどれだけの確な対応ができたのかどうかということですね。これが非常に重要なことになろうかと思うんです。昨年、館山一中で大村良太君が亡くなった事件もありましたけれども、ああいう場合に亀田病院行くまでの間ですよ、この救急自動車の中でどのような処置や対応がされたのかというのが大変重要なことになろうと思うのです。救命率の上では、ある意味では医療機関の整備よりも重要な場合が少なくないと思うんです。救急自動車についても高規格の救急自動車を設置する必要があるとか、あるいはそうした処置のできる救命士の育成、こういったものを急がなければならないとかということであろうと思うのです。

そういう点じゃ、従来の救急、消防の事業全体をもっと大きな視野から根本的に見直す、抜本的に見直すことがやはり——当面の手直しという範囲内では済まないんじゃないかなと。この点に関しては、安房広域圏の中では各市町村の基準財政需要額を基準にして消防費の算定をしているという従来からのやり方があるわけですが、こうしたやり方そのものを含めて、その範囲内ということではとてもとてもこういうことまでの整備はできないんじゃないかなと思うんです。かなり大きな財政的な負担というものも当然考えなきゃならない。しかし、これは住民の財産や命にかかわる最も市町村の根本的な基本的な仕事でもある、住民を守るという上で。それだけにこれは重視しなきゃならないこととして、いわゆる基準財政需要額というような考え方を一歩踏み出して考えなければならない。先ほど今後の課題だというお話でありましたけれども、今後の課題だ——もちろん今後の課題だということは間違いないんですけれども、しかし従来のあり方と違う抜本的な検討が必要な分野じゃないかなと思うんですが、そこいらについてどういうふうにお考えになっているか、お聞かせをいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 自衛隊基地についての御質問が2つございましたけれども、1つの海上自衛隊館山航空基地のあり方、基本問題につきまして私からお答えいたします。

この海上自衛隊館山航空基地は、昭和の初めからできておりまして、もう2分の1世紀完全に超えています。先ほど申し上げましたとおり、日本の平和を守り、あるいは独立を守り、あるいは最近近くは近くの離島の人命救助、幅広い活動をされております。その基地の性格そのものを今ここで一挙に方向づけるというんじゃなくて、これからあの基地を国防上の問題とともに、また存在します館山市民のためにということでじっくり考えていきたいと、こう考えます。現段階におけるお答えはその程度です。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） まず、手数料の関係についてお答えを申し上げます。

いつまで検討するかということでございますが、市長が答弁いたしましたとおり平成4年度引き続き検討課題、平成4年度本格的に検討課題ということで対処してまいりたいと思います。

それから、続きまして紙ごみの経済効果等でございますけれども、具体的な経済効果はいろいろ試算の方法、大変議員さんのおっしゃるとおりいろいろあると思いますけれども、いわゆる直接的なものとしましてはいわゆる紙ごみを業者に売り渡しました額、大体これ400万から500万ぐらいじゃないかなと。それから、収集と処理の経費、これはトン当たり約1万円ぐらいというふうに見ておりますが、これが700万ぐらい。合計1,100万ぐらいという、いわゆるダイレクトな経済効果といえますか、そういうものではないかというふうに考えております。

それと、今後の町内会長とか業者とか、そういうものに対する助成はどうかということでございますけれども、他市の状況いろいろあるわけでございますけれども、館山市は御承知のとおり一般の家庭用のごみと一緒に出してもらうといういわゆる画期的なものでございます。そういうようなことで、町内会長さんとかそういう方々に大変協力はしていただいているわけでございますけれども、いわゆる処理経費の軽減ということで、そちらの面から間接的に町内会長さんの方に負担を少なくしていただくというふうなことを考えております。

それから、最後の消防の関係でございますけれども、週休2日制に伴う人件費の増員の検討、また救急業務に対する抜本的な検討の御意見ございました。広域圏の方にもよく伝えて、今後の消防活動、救急活動が円滑にまいますように要望いたしたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 海上自衛隊の土地の固定資産税の市の評価を周辺と比べてどうかということでございますけれども、市の評価といたしましては平米 7,800円程度、国の評価の方では 7,695円ということで 105円の差が現在見込まれております。ただ、利用状況によって異なるということも御理解いただきたいと思います。

都市計画税につきましては、取っておりませんが、評価額の3%ということになります。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 市長さんはこの基地の問題について——確かにこれ大きなテーマだと思います。しかし、いわゆるタブーにしちゃいけないというふうに思うんです。これもやはり館山市政の上でも大きな問題、特にあれだけの土地が、ざっくばらんな話いろんな開発の問題、リゾートの問題とかという点から考えたら一等地ですよ、端的な話を言いますと。しかし、そういうことはすぐに議論できるかどうかという問題は別といたしまして、しかしいわゆるタブーにはしてはいけないということで、市民の立場からいろんな議論を積み重ねていかなきゃならないなということで、今後じっくり考えていきたいということですから、ぜひそういうことで御検討していただきたいなと思います。

そうした中で、私どもの見解もこの問題についてその場、その場の中で述べていきたいと思います。

それから、手数料の関係で、ちょっと答弁がさっきのだと漏れてた問題は、条例の改正が必要なのかどうかという問題があるんですが、条例の手続なしにこの手数料条例、現在の手数料条例第7条の第2項の手数料を徴収しない

例として挙げられている官公署において事務上必要とするもの、これは適用できるんじゃないかなと。そうしますと、一応条例の手続なしに市長の判断でそこはできるのではないかと思うんですが、その辺はどうなんですかということです。

それから、紙ごみの関係ですけれども、やっぱり民間の業者でやっていますから、なかなか市の一般の回収のようにはいかない問題点があるんですよ。これはこういう場であれなんですけども、端的な話が8時半に紙ごみは出してください、ステーションに。ところが、8時半にステーションに行きますと、紙ごみが全然なくなっちゃっているんですよ。地元の館山市が委託している業者以外の業者が――聞き及ぶところでは他の町村だというふうに聞いてますけれども、持ってっちゃうということで、紙の値段が若干よくなってきたということがあると、新聞紙なんかですと割と値がいいものですから、雑誌なんかに比べて。おいしいところだけつまみ食いといいますか、そういうようなことも聞き及んでいるわけです。

そういう点じゃ、それがたくさんになれば大きな問題になろうかと思えますけれども、そういう話も聞き及んでいるところで、今後考えなきゃいけないんじゃないかなと思うんですが、例えば紙ごみの回収のときに、人数も少ないですからどうも時間どおりということにいかないようで大変なようなんですが、例えば鈴の音を鳴らすとか、そうすると紙ごみの回収が来たんだと、また住民の中に紙ごみの回収の日だとかいうことが改めて意識されるとかですね。うっかり忘れると1カ月来ませんからね、大体。結構大変なんです。ちょっとまだ来てないだろうななんかと思っているうちに来ちゃったりしますと。そういう点で例えばそうした軽やかな鈴の音とか、何かあるいは緑を守ろうとかというような歌ですとか、ちょっとしたアイデアで住民の中にそういうような紙ごみの回収について、きょうは回収日ですよと、今、回収車が来ますよというようなことがさわやかに宣伝もされて回収効率上がるというようなことの工夫が必要じゃないかなと。これは例えばの一つの提案ですけども、御検討いただければと思います。

経済的な効果が今のお話ですと約 1,100万 ― 1,100万というのはちょっ

と控え目の数字じゃないか、随分控え目に見た数字だろうと思いますけども、焼却費用がトン当たり1万円という見方もかなり低いですから、大体今2万、他の町村3万円なんかというところもありますからね、トン当たりの焼却費用が。ですから、1万円というふうな見方でということですから、かなり控え目の数字ですけど、それでも1,100万。そのうち業者の方にガソリン代だよということで136万8,000円が交付されているということですから、一番紙ごみの回収でいい思いしているのは市の方で、市の税金がそれだけ効率的に使われているということだろうと思うんです。これさらに上げるということからすると、先ほども言いましたけれども、やはりもうそろそろ限界なんじゃないかなという気もするんですよ。700トンというのはかなりの数ですよ。さっき言ったようなほかの業者が取っていっちゃうなんていう話もありますけれども。そういうことからしますと住民の協力ということで1つはこんなに大きな成果がありましたと、皆さんの協力でこの1年間。1,000万とか1,500万とかいう、そういうことで非常に税金を効率的に使うことができたんです、さらに協力してくださいというアピールですね、こういうものをさらに住民に行うということが大事だと思います。

それから、これ無視できないなと思うのは、やはりこの問題は主婦なんです。やっぱり新聞紙を丸めたりなんかして、いつ出したらいいかというのは男の人はなかなかわからないけども、女の方はやっぱりそういうことは非常によく承知しています。ですから、婦人の方の協力を得るということ、大変大事で、紙ごみをこの日以外に出すとトイレットペーパーもらえるんですよ。市の方に出すと何ももらえないという話があるんです。それも一つの考えなんですけども、それもしかしばかにしちゃいけない意見だろうと思うんです。ですから、私はこれだけの経済効果があったんだということで、住民にそれがこういう形で還元できましたということは目に見えてわかるということが、やはりこの施策を安定的に発展させてさらにごみの回収の量をふやしていく上でも、重要な一つのポイントなんじゃないかなというふうに思うんです。一般的な広報で宣伝するということも大事ですけども、同時にそれをある程度財源も考えて、それだけの経済効果があるんですから、それを

有効に活用して、なるほどこういうことならもっと協力しようじゃないかということで、例えば先ほど言ったのは各町内会あたりにキロ3円なら3円単位で協力金という形で交付をして、さらに住民の協力を促していくということでございますね。そういうことを工夫してはどうかと思うんですよ。その辺はいかがなんでしょうかということなんです。

あとの点について、消防の関係ですけれども、これはなかなか大きな問題で、しかし同時に市民の財産と生命を守るという一番基本的な仕事ですから、非常にここは思い切って従来の枠を超えた検討ということをお願いをいたしまして、一応質問を終わります。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 第1点の手数料の関係で条例をさわずにという御質問でございますけれども、他市の状況等もいろいろ調べてみたんですけども、確かに条例をさわずに条項の中に入れて考えていく団体もありますし、またこれはやはりはっきりした方がいいというようなことで、6項目以外に1項目つけまして条例化しているところもございます。そういうものも含めまして本年度積極的な検討をしてまいりたいというふうに考えております。

2点目のごみの経済効果に対する市民のさらなる啓発と工夫でございますけれども、大変貴重な御意見いただきましてありがとうございました。私も、これはもう市民の協力の1点にかかっているというふうに考えております。おかげさまで職員のアイデアでごみのカレンダーをつくったわけでございますけれども、これが大変どこへ行っても張ってあって、大変感謝しているわけでございます。これからもこういうカレンダーを、今度は例えば子供たちにあの図柄とかデザイン等も応募をお願いしまして、子供たちからこの環境問題、ごみ問題を取り上げていただくというようなことも担当課で考えているようでございます。また、民間の環境美化基金等もつくっていただいたケースもございます。そういうもの等も利用しながら市民のさらなる協力をいただきたい、かように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 都市計画税でございますけども、先ほど 100分の3と答えたようですが、100分の0.3ということで訂正願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 通告順に質問を申し上げたいと思います。

最初に、歳入歳出予算案の総括的な質問を第1番に行いたいと思いますので、市長のひとつ見解を明確に教えていただきたいと思います。

まず第1は、平成3年度の歳入歳出予算の伸びは前年対比で11.7%の増であったわけでございます。続いて、本年度も11.9%の伸びになっているわけでございまして、この伸び率につきましては国の地方財政計画ですら4.9%、県の予算案の伸びも3.5%という中におきましては、率直に言って高く評価いたしたいというふうに存ずるところでございます。しかしながら、これは表面的な問題でありまして、この議場の中において予算審議するに当たって歳入歳出でもって3点について私は質問をいたしたいと思います。非常に露骨な面もあらうかと思えますけれども、これはやっぱり市民のためを考えて、ひとつ市長の姿勢として率直な御答弁をいただきたいと思います。

まず第1点は、さきの通告質問で山中議員が通告いたしたわけでございまして、多少それを補完する意味から質問して御答弁をいただきたいと思います。いろいろな館山市の予算規模が小さいこと、そして市民1人当たりの予算額が他市に比べて少ないこと、この2点が非常に広い範囲から山中議員から質問されたわけでございますけれども、私は今年度の予算に限って館山市と人口が同じ5万台である隣の富津市と、そして同じ安房郡内の鴨川市と比べてどうなっておるかという点についてひとつ伺いたいと思います。

館山市の一般予算は144億2,000万円でございます。これ、人口5万4,779名に対しまして1人当たりの予算は23万4,000円でございます。これは山中議員が指摘したところでございます。そして、同じく人口が5万5,626名

の隣の富津市でございます。一般会計当初予算は 215億 5,000万円でございます。1人当たりの予算は49万円でございます。館山は23万に対して49万円でございます。そして、同じ安房郡の鴨川市でございますけれども、当初予算は98億 4,000万円でございます。人口3万 1,845でございます。安房郡内の同じ市町村でございますけれども、この1人当たりの予算額は31万円でございます。館山市の23万円と比べてもかなり高いわけでございます。一般会計ではこれだけの差があるわけでございます。館山市は本年度の予算において11.9%、富津市は 5.9%、鴨川市は5%の上昇率でございまするので、そういう面では意欲的な面が見られております。

そして、もう一つ私はここでもって申し上げたいのは、一般会計、特別会計等合わせた総予算額でございますけど、館山は 232億でございます。1人当たりが42万円でございます。隣の富津市は 304億円でございます。1人当たりは55万円になるわけでございます。同じ郡内の鴨川市は 175億でございます。1人当たりの予算額は56万円でございます。総予算に対する1人当たりの予算は鴨川市は富津市よりも大きいんでございます。館山市の42万円と比べると相当の違いがあるわけでございます。いろいろな方策、施策あると思いますけども、結果的にはこの1人当たりの予算がどれだけあるかということが、やはりこの市民生活の向上とほぼイコールしていいというふうに思います。

この点については数年来指摘されてきているところでございまして、率直に言って今回は全県的にも10%前年対比で伸びたところは3市ですか、4市ぐらいしかないわけでございますから、そういう面では新聞等館山市11.9%の前年対比伸びという積極財政編成という大見出しが出ておったわけでございますけども、それだけだと非常に喜んでいいんですけど、内容的にはこうしたところの内容があるということについてどのようにお考えになっておるのか、この3市の今言った数字を見て市長の率直な御意見を聞かせていただきたい。

それから第2番目は、こうした予算が伸びたわけでございますけれども、この予算の伸びの大半は広域水道の負担金、終末処理場の土地購入費、さら

には人件費のアップによるところの増が大半を占めておるわけでございまして、その反面において市民の生活と直接結びついたところの予算項目は前年対比で減額になっておる。これは私は大変なことであろうと思います。具体的にこの数字を申し述べますと、総括表の中で出ておりますところの物件費、性質別の支出の中でもって物件費が前年対比で減でございます。それから、建設費が前年対比で減になっているわけでございます。これはもう大変なことであろうかと思うわけでございます。本来は、この物件費と建設費がいかに関係するかということでもって、人件費の伸びよりこっちの伸びの方が市民生活には非常に直接つながるわけでございまして、ここが減になっておることについては、私はある程度しわ寄せになったんじゃないかというふうに思うわけでございます。

内容的に申しますと、予算書の55ページの防災費、それから57ページの交通安全費、それから90ページの保健衛生費、94ページ的环境衛生費、105ページの農林振興費、117ページの観光費、122ページから3ページに至る道路費、それから152ページの社会教育費、そして体育協会、スポーツ少年団等の補助金がそれぞれ前年対比でもって減額になっておるわけでございます。こうしたところの非常に市民生活にとって重要な部面が、どういう事情があるかわかりませんが、前年対比で減になっておる。従来から言って、こうしたところの予算が他市に比べて低いところにおいて減額されるということについては、私は市民生活に影響を及ぼした——悪い言葉で言えばしわ寄せをさせた、ということでもって広域水道とか終末処理場の土地購入費、こういうものに転嫁した、こう言わざるを得ないのでございまして、こうした点について非常に市長としても苦しいところであると思いますけれども、予算議会でございますから率直な御意見、どのように考えておるか。

そして、これはやっぱり議会は常に半澤市長以来この点については協調しているわけでございますから、いわゆる本音の討論をして、こうしたところの予算項目についてやはりもっとふやしていくということについてお互いに努力し、市の方も対応してもらいたい、このように思うわけでございます。

から、そういう観点から御答弁をいただきたい。

3番目は、法人市民税の大幅な落ち込みでございます。地方交付税の減額についても、同様法人税法の減によって行われているわけでございますけれども、先ほどこの点については神田議員からも質問があったわけでございますけれども、この法人市民税がやはり年々低下してきておるということ、そしてある許容の線を超えたんじゃないかというふうに思うわけでございますけれども、許容の線というのは昨年度の予算におきましては市民税に占める法人市民税は31%、今年度は25%に減っているわけでございます。6%のマイナスなんです。これはやはり市の経済政策、法人企業に対するところの政策が十分とはいえないんじゃないかと、こういうふうに判断されても仕方がないような感があるわけでございますけれども、この点についてはこの落ち込みはどういう事情で、どうしてこのようにもう25%まで変わってきたかという点についてお伺いしたい。

同時に、この総額の中でもって個人市民税は大幅に伸びているわけでございます。法人税の伸びを個人市民税にしわ寄せさせられていると言っても過言ではないぐらいになっているわけございまして、この予算案から見ますと市民税はふえているわけでございます。だけど、法人税はぐっと減っているわけです。ふえているのは市民税がふえているからということであるわけでございますから、ここら辺の矛盾については、やはりここでもって市長の所信というものを明らかにしておかないと全体的な予算についてその焦点を見失う感もございますので、以上3点についてひとつ率直な御答弁をいただきたい。

そこで、私は歳入予算について5項目、歳出予算について8項目重点的に御質問を申し上げたいと思うのでございます。最初は、予算案25ページでございます。法人市民税について御質問を申し上げたいと思います。去年は前年対比でもって3,371万円の減少であったわけでございます、昨年の予算は。本年度はそれがさらに倍加しまして、6,020万円の減少であるわけでございます。このように、前年に比較しても大きくなっておるわけでございますけれども、館山市の状況はさらに減少傾向にあるのか、そして昨年あたりを

底辺にいたしましてこれに歯どめを行うところの政策なり対応というものはできないのかどうなのか、この点についてお伺いをする次第でございます。

2番目は、同じく25ページの中段の固定資産税の中でございます。先ほど神田議員が質問いたしましたけれども、それと若干角度を変えた面での質問でございますのでよろしくお願いいたします。国有資産等所在市町村交付金でございますけれども、自衛隊の論議が中心になっておるわけでございますけれども、昨年の予算案は前年対比でもって51万円の減だったわけです。そして、平成4年度は逆に1,159万円と大幅な増額になっているわけでございます。この増額というのは物すごい大きな増額なわけでございます。これは、国有財産に対すところの課税の漏れがあるということでもって、全国的にこれらは指摘されて云々ということであったわけでございますけれども、このように1,159万2,000円という、前年は低くなったけれども、ことはこんなに大きくなっている。この内容をどういう施設か、去年の分かことしの分か、さかのぼるのか、さかのぼらないのか、その明細を示してもらいたい。それが第2点です。

第3点は、その下段にある特別土地保有税でございます。予算では前年対比でもって5,469万円の増になっております。しかし、この議会に提案されておりますところの補正予算では1億2,125万円が追加更正されているわけでございます。そうしますと、3年度の決算額は3億149万円になるわけでございます。となってくると、この1億6,700万円という数字は余りにも低いんじゃないか。3年度の決算額は3億なのに対して、ことしの予算案は1億6,000万、半分になってしまうわけでございます。この半分になる理由と内容について、ちょっと額が大き過ぎるものですからわかりやすく教えていただきたい。

それから4番目は、27ページの下段でございます。これは地方交付税についてでございますけれども、神田議員はこの中の国有財産の面についての課税について質問されたわけでございますけれども、私は別な角度から質問をいたしたいと思うわけです。予算書では2億3,000万円の前年対比でもって増額になっておりますけれども、今度の補正で1億1,000万円が補正さ

れまして、最終的には当初予算に対して6億8,551万円の増額になっているわけでございます。したがって、平成3年度決算で21億9,551万円になるわけでございますから、したがって本年度の予算17億4,000万円は前年対比で4億5,551万円の減になるわけでございます。——いいですか。決算に対して5億は減になるわけです。当初予算からいきますと2億3,000万円の増になっているわけでございますけど、決算額から見ますと逆に2億5,000万円の減になっておるわけでございます。

本年度の国の地方財政計画では地方交付税の交付金は15兆6,792億円——いいですか、今年度の国の地方財政計画では15兆6,792億円が見積もられているわけでございます。この額は前年対比でもって5.7%の伸び率になっているわけでございます。したがって、館山のように財政事情が非常に悪い中においては、国の予算案、財政見込みですら5.7%の伸びを見せているわけでございますから、したがってここでは21億円に対してやはりこの伸び率の5.7%ぐらい伸びるという積極的な見込みを立てられなかったのかどうか。

地方交付税については、館山市は非常に弱気である、ほかの町村と比べても非常に低い。これは山中議員が指摘したところなんですけれども、それはやっぱり算定方法そのものに、私姿勢そのものについて、市長以下財政部においてこの地方交付税に対するところの取り組みの姿勢が弱気じゃないかというふうに私は判断せざるを得ない。結果的には、国の財政計画を対照してきました、年度末になってきますとどんどんふやしていった、大幅にふえましたと、こういうことでいかにも市が国に働きかけて取ってきたというような感じでございますけれども、その総体額はペイは非常に少ないわけでございます、総体から見ていって。となってくると、余りこうしたテクニックというのははやらないんじゃないかと思うし、もうそろそろ議会の中では通用しなくなっているんじゃないかというふうに私は指摘せざるを得ないわけでございますけれども、ここでもって決算額の交付税を上回る予算が計上できなかった理由について教えていただきたい、この点を質問を申し上げる次第でございます。

それから4番目に、31ページでございます。上段の2節老人福祉費負担金でございます。これにつきましては、昨年度の予算案は6,442万円であったわけでございますけれども、今回の議会に204万円の減額の補正を提案をされているわけでございます。去年の6,442万円の当初予算に対して204万円が減額補正として今提案されているわけでございますけれども、となりますると今回逆に626万円の増額がなされているわけでございますけれども、今回の議会でもって204万減額しておいて、来年度はすぐに626万円が増額されなければならない理由と内容についてどういうことか、非常に私ども議員から見ると矛盾しているようで、ちょっと理解しにくいものですから、そこら辺をわかりやすく教えていただきたい。

以上、歳入については5点。

次に、歳出について御質問を申し上げます。50ページでございます。50ページの下段に13節委託料でございます。これにつきましては、昨年度が2,400万円で今回は3,200万円ということで、大幅にふえているわけでございます。そこでもって、まず第1にはこの内訳の中でもってグラフ誌製作委託料、それから広報編集業務委託料、市民便利帳製作委託料、この内訳について教えていただきたいと思います。

それから、2番目にこれらの委託先というんですか、それから製本業者についてはどのような方法でどのような形で委託をしておるのか、この内容についてお伺いしたいわけでございます。これは、庄司市長になってからのことでございます。平成2年度まではこの1,400万円というところの広報委託費は計上されてなかったわけでございます。市の広報係の方でもって全部やっておったわけでございますけれども、館山市の広報を編集するについて外部へ委託して1,434万というのは相当な額でございます。これはもう観光協会の補助金とか、商工会議所の補助金全体を上回るものでございますし、体育協会の振興補助金もはるかに上回る額でございますから安いというにはいきませんで、これらと対比して、これやることについて庄司市長のやはり目玉でもあろうと思うわけでございますから、この内容がどのような成果を上げ、どのような形でもってことし取り組もうとしておるのか、その点に

ついてひとつわかりやすく教えていただきたいというふうに思います。

それから2番目に、60ページの下段の19節補助金の中で地区コミュニティ委員会運営補助金 101万、コミュニティ事業補助金 1,312万、これは昨年対比でもって若干伸びているわけでございますけれども、コミュニティというのは非常に重要なことでありますので結構なことだと思いますけれども、そこで2点についてお伺いしたいと思います。この運営補助金と事業補助金との関係はどのようになっているのか、お伺いしたいのが1点。それから2番目には、このコミュニティ事業費の補助対象になっておるのはどういうもので、どういう形でどのような事業が運営されておるのか、この点についてひとつわかりやすく教えていただきたいと思います。

それから3番目に、95ページ、下段の19節補助金でございます。一番最後を書いてありますけれども、これは合併処理浄化槽設置事業費30基分 3,221万 8,000円でございます。昨年在20基で 1,472万 4,000円でありましたから3分の1の増になったわけでございます。この増になった理由と経過について、どういう必要性があったのか、まず第一に聞きたい。

それから第2番目には、今終末処理場を建設中でございます。平成12年には市街地の一部地域についてこれが利用できるようになるわけでございますけれども、ここでもってこのように大幅な合併処理槽を推進していきまると平成12年、あと6～7年たちますとこれを廃止して全部終末処理場にぶち込まなきゃいけないという、こういう事態が起きてくると、かなりの金をかけてやったけれども、全部かえなきゃならない。これは、去年——おとしですか、下水道対策特別委員会でもって清水市を視察したときに、もう工事が始まったら合併浄化槽の推進をやるとこれがネックになりますよと。そこ、うちの方せっかくやってあるのだから終末処理場なんかに加入しないということで出てきますと、そうするとこれは全世帯が入ってもらわないといけないんですから、もう合併処理槽を市の補助でやったのでこれを廃止して、また新たに処理施設つくるといのはとんでもないということでもって、こういうことはかなり前から自粛しておいた方が終末処理場をつくる中でもって非常にいいことだと、これは参考になりますよということで教えて

いただいたことが私は非常に耳にしみついているわけでございます。

そういうことでいきますと、今回このように大幅に合併処理場をつくるということになりますと、そのつくる地域と需要者はどういうことになるのか。今回の処理場をつくる計画区域の中において、そうした面でもって矛盾しないか。そして、すぐ4～5年先についてはもうすぐにそれを全部終末処理場に直結しなきゃいけないわけですから、今つくった何百万というものがもうむだになってしまうと、もうトラブルが起きると、こういうことが想定されておるわけでございますけど、こうした問題はせっかくの制度をやっておきながら、もう5～6年先にこういうトラブルが起きるということを考えて今回やられたのかどうなのか。この点について非常に私は矛盾を感じますので、ひとつこの点はどうなっておるのか、あわせて説明をいただきたい。

5番目には、122ページの下段でございます。これから123ページに移りまして、第2目道路維持費、15節道路工事請負費、19節負担金及び補助金、市道の舗装についてでございますけれども、これは減額になっておるわけでございます。1つは、この道路維持費の補修につきまして540万円が減になっておるわけでございますけども、今館山市の市道の舗装したものについては耐用年数はどのぐらいに考えておるのか。そして、側溝のない市道については、もう側溝をつけるということは非常に大事なことでありますから、この側溝のついてないところはどのぐらい、何％に当たるのか、市道の中について。この点についてまず第1点教えていただきたい。

それから2番目に、この19節の負担金でございますけれども、ことしは補助金が100万円でございます。昨年は580万円でございます。まだ制度が発足して3年目でございます。580万円が100万円に減るということは、これはもう大変な減額でございます。見方によってはこれはもう何ですか、利用がないと、こういうふうに言い切ってもいいぐらいの減額でございますけども、スタートして3年そこそこでもってどうしてこの補助金が100万円に減ってしまったのか、この点についてお伺いをいたしたい。非常に私道のものについてやってもらいたいけども、なかなかやってもらえないというものも相当あるように、私は随分いろんなところでって私道の舗装について要望

を聞いているんですけども、私が聞いているだけでも市に持ち込んだらもう数千万円ぐらいするんじゃないかという、もう1カ所や2カ所でございませんで、こうした点がやはり対応できないというのはどういう欠陥があるのか。鳴り物入りでスタートしたところの私道に対する補助金制度が制度的に間違っておるのか、無理があるのか、そうとしか考えられないわけでございますけれども、このやはり減っていく理由と事情について御説明いただきたい。

そして、下段の方の15節でございますけれども、この道路工事請負費、これにつきましては前年に続き 537万円の減になっているわけでございます。私は今道路の改良または新設費というのは非常に重要だというふうに思っておるわけでございます。いろいろ頼んでも3年回しとか4年越しになってもまだ先がつかえているから、辻田議員の要望といえどもそう簡単に前に上げるわけにいかないよと、そんなに市は金はないからということのを再三言われてまして、私はかなり——大した議員でもないから発言力ないのかわかりませんけれども、3年、4年と繰り延ばされたんじゃ、ほかの地域も相当これはこの繰り延べがたまっているんだなというふうに思うわけございまして、このたまっておところの総事業費総額はどのぐらいになるのか、参考までに教えていただきたい。

少なくとも、こうした問題については3カ年計画ぐらいでもって抜本的にやはりやるという、市道の改装、舗装をもう全要望を組み入れて——どのぐらいの予算かかるかわかりません。やって私はできない額じゃないと思います。10億かそこら前後だと思いますから、そこら辺ぐらいはひとつ思い切って庄司市長の目玉として——かつて本間市長が道路の舗装については頭へ来たということで、当時の金で4億円ですか、5億円起債をやって、全部2～3年でもってやってしまったということでもって、当時の4億といえますと今の20億か30億ぐらいのものであって、物すごい勢いでやって、私ども哑然としたわけですけども、本間市長はそれやりのけた。その起債の赤字がずっと後まで尾を引いて、非常に財政赤字になって困ったということで半澤市長言っておりましたけども。そこまでいかなくともそれに近い抜本対策はや

っぱり庄司市長の手でもっともうやる時期に来ているんじゃないかというふうに思うけども、この点について去年も減額、ことしも減額と、こうなってくるとどうも市民の要望とそこら辺が対応できてないんじゃないか、こう思いますので、そこら辺の点について市長の御意見をお伺いしたいと思います。

なお、97ページに逆戻りをいたしまして、ここの上段の19節補助金でございますけども、広域市町村組合の粗大ごみの処理負担金が7,961万円ということでもって非常に増加しているわけでございます。これは鉄くず等の問題であろうかと思えまするけれども、これは国や県が分別収集をしてやれということをやったところが、今度逆にそれに金を払わなきゃいけないことになってしまって、これはもう国も県も指導上の責任もあろうかと思って、これらについては何とか対応策を考えるということが国会答弁だとかそういうところでなされておるわけでございまするけども、そういうことを見込んでこれだけの増をしたのか、全く見込んでないのか、その点についてお伺いしたい。

2番目に、その下の環境保全公社の運営補助金の内容について教えていただきたい。これは今回料金の値上げ案が提案されているわけでございまするけれども、この値上げは通るか通らないかわかりませんが、これは通るということを見込んでこういうことを入れているのか、またこの値上げ案が通ればこうした増額というものは解消されるのか、されないのか、この点について説明をいただきたいと思います。

それから6番目に、154ページ、委託料の中の薪能の委託料280万円でございまするけれども、薪能が中止されて残念だという御意見も幾つか聞いております。私もかつて謡を3年近く習ったことがあるものですから興味はございますし、年に2～3度は国立劇場の能の見学会の会員にもなって見ておりますので、関心はないわけではないわけでございますけども、そういう人びと、昔の謡仲間の人たちから非常に中止になったのは残念だということは聞いております。これは、しかしながら私はその数も非常に少ないということを知っています。当時から比べまして、私の教わった先生が10年ほど前に亡くなってしまったものですから、それで私もやめてしまったわけでござい

まするけど、ほかに教えるような先生がいないものですから、大分謡をやっているサークルそれから愛好者というのはここ相当少なくなっている。これは、謡がわからなければ能なんていうのはさっぱりわからないのももって、歌舞伎より難しいわけでごさいます、これはセットなものでもって、そういう中で能が果たして館山市の中で維持できるものかどうか。これはもう最初から問題あったわけでごさいますけども、今回復活に至った経緯と見通しについてまず第1点、どのような状況であったのかお伺いしたいと思います。

それから2番目には、この能を館山で7回これまで開催してきたわけでごさいますけれども、これは観光協会の肝いりで、半澤市長も施政方針演説の中でもって見ますと、観光客を誘致する面からこの薪能を行うんだということでもって、この薪能の経費は観光費として計上されておったわけでごさいます。あくまでも観光客誘致ということでもって観光協会、商工会議所が一生懸命やってきたんですけども、切符が売れないということでもってどうも中止になってしまったようでごさいますから、そこら辺はいろいろ事情があったと思いますけど、観光協会が中止したものについて教育委員会に移ってこれが成功するものかどうかということが第1点。

それから2番目に、観光協会が観光客の誘致を目標にしてスタートした能が教育委員会に移ることによって、これは教育的な観点から開催されることになるわけでごさいます。その場合には、市民がかなり対象的になって、市民の謡をやる人たちが非常に少ない中、私は100人いないと思いますよ。当時私がやっていたころで40~50人だったんですけど、その後教える先生も少なくなったものですから、年寄りの人も随分亡くなりましたものですからかなり減ってきている。そういう中でもってこれを開催するについては、かなり無理があるんじゃないかと思うわけでごさいますけれども、その点についてどのように考えておるのか。

私はせっかくのものが、いいにはわかっているけれども、これ大変だというものについて安易にやりますと、後でもって大変なことになってしまって、議会も「はい」ということでもって——観光協会長も笑ってますけども、

私はもうやめるについては本当に忍びない思いだったというふうに思います。特に、半澤市長は文化市長でもってこういうものがもう大好きでもって天下に通っていた市長ですら、これはもう中止せざるを得ないということでもって中止に踏み切ったわけでございますから、それを復活するということになればかなりのやっぱり見直しが立っていないと、安易にこれを教育委員会引き受けてやってようございますというわけには私はいかないんじゃないか。私はやってもらいたいというふうに思うんですけれども、そこら辺はやっぱり慎重にこの中でもって論議をしたいというふうに思うわけでございます。

それから次の7番目、155ページの上段でございますけども、民族音楽フェスティバルの負担金 500万円でございます。これについても薪能と同じでございます。これは、去年までは総務費の中の企画費として市長公室が担当してきた事業であるわけでございます。そして、この市長公室から社会教育課にこれがかわるということは、その性質が非常に私は違うと思いますよ。市がやっているときは、市の50周年記念行事絡みでもって市民挙げてやるということ、それと同時に私の方は相撲興行やって成功したわけでございますが、非常に苦勞しましたけれども、相対でやったわけ。しかしながら、いろいろな意見があって今日引き継いできたと思うけれども、しかしながら教育委員会の社会教育でやるということになってくると、かなり内容的にも違ってくる、市民単位の、社会教育という市民中心のものになってくるわけでございますから、それが同じ 500万円の額で同じようなことでもって移行するという点について、性質的に異なるものが矛盾しないかどうか、この点はどうのように考えておるのか。

そして、去年、一昨年とやっぱり券を売るについて、これは観光協会なり商工会議所が非常に切符が売れなくてそっちこっち売りに歩いていて、私の方に相撲の券はすぐ売れるけども、おら方の民族フェスティバルの切符はちっとも売れなくて、おれはしよい込みだよということでもって随分つき合わされて、私も義理で何枚かつき合ったのがありましたけれども、非常に苦勞しておったけれども、教育委員会にいったときにこういう問題は起きないのかどうなのか。そういう点については十分検討された上だと思えまするけれ

ども、そこら辺の検討の経過と見通しについてひとつ — いいことだと思えますけれども、いいことだからといって金も 500万も出して、今の財政事情の中でもってやって、これが余りうまくいなくて、非常に負担ばかり大きくなって成果が上がらないということになってくるとやはり問題でありまして、今までの市が主催してやっている中においても切符を売ることが観客動員数でもってかなり問題があった点が、今度社教へいってこれが果たしてどうなのか、ここら辺の見通しについてお伺いしたいわけでございます。

それから最後に、164ページ、この19節補助金でございますけども、私かねがね申しておるわけでございますけど、体育協会の補助金 714万円、これは前年対比でもって減額でございます。スポーツ少年団の育成補助金 185万円も、これも減額でございます。私は、市の方の予算が11.9%伸びた中でもって、スポーツの補助金が減らされるということについては納得いかないし、庄司市長は半澤市長の文化市長ということから見ると、文化市長には変わりないけども、スポーツの振興にも非常に熱意のある市長だということで期待されておりますし、市長に就任して一番先に手をつけたのは、長年の懸案であったスポーツ課の独立であるわけでございますが、それをなし遂げていながら1年目にして、スポーツ課という大改革が十何年ぶりで私なんか要望していたものがもう1日にして実現したわけでございますから、それにもかかわらず具体的な活動の分野の体協の補助金、スポーツ少年団の補助金が減額されていくということについては、スポーツ課が何のためにできたんだか、ちょっと理解に苦む点がある。

ここについて、この減額された理由と、それからスポーツ課をつくって、通告質問でもしましたけれども、スポーツの振興に力を入れなければならない、それが体育協会に対しては 700万ですね。これはもう民族フェスティバルは 500万ぼんと出したり、広報費を 1,400万円ぼんと出す中からいって、体育協会の 700万円が削らなきゃならないということについては大変なことだろうと。昔国体のときに、本間市長に対してスポーツ少年団は、当時50万円ぐらいの補助金ですけども、強化してもらうために 100万円増額してもらいたいということで増額しました。国体が終わったときに削らなきゃいけな

いかということだったんですけども、いや、削るなんてけちなことしないよと、この勢いでもって継続してどんどんやっていってくださいよというのが今の160万か180万ぐらいのスポーツ少年団の補助金になってきているのですけども、このぐらいのものについては何かの事情でふえたら翌年はそれを削るなんてことでなくて、さらに前進させるということがやはりスポーツに力を入れ、市民スポーツをやっていくと——大した額じゃないんですから、少ないんですから。私はこの7～8倍ぐらいにふやしてもらわなきゃいけないというふうに思っているわけでごさいます、これからそういう運動を起こしたいと思っているわけです。そういう中でもって削られちゃうと、全く何というんですか、出足をくじかれたという感がいたしまして、これはやっぱり庄司市長も同じだと思うわけでごさいます、こちら辺についてひとつそういう決意とあわせて御答弁をいただきたいと思います。

よろしく願います。

◎議長（福原 勲君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

まず最初に、平成4年度当初予算に関する件でごさいます。予算規模と内容についての御質問でごさいますが、平成4年度の予算編成に当たりましては、景気の動向が懸念される中にありまして、歳入の根幹となる市税等一般財源の大幅な伸びが期待できない状況にあること、並びに将来に向けて財政構造の弾力性を確保するため市債の抑制基調を堅持する必要があることなど、主要な財源の伸びが期待できない非常に厳しい状況にごさいました。

一方、歳出面では人件費、扶助費などの義務的経費の増加が確実に見込まれる中にありまして、21世紀に向けての新たな都市の基盤づくり、まさに始まったところでありまして、上水道事業、公共下水道事業、館山駅周辺市街地整備事業等の大規模プロジェクトの着実な推進を図るとともに、地域経済の振興、福祉の向上、教育、文化、スポーツの振興等の施策の積極的な推進が今求められているとの認識のもとに、限られた財源の重点的、効果的な配分を行うとともに、各種施策の優先順位の厳しい選択の中で、11.9%増の

積極的な予算を編成した次第でございます。

今後とも厳しい財政状況は続くものと考えますが、事業実施に要します特定財源などの獲得に全力を挙げまして、可能な限りさらに積極的な財政投資を心がけていくとともに、長期的な展望に立ちまして健全財政の堅持を図りつつ、各種事業の堅実な推進に努めてまいりたい、この所存でございます。

当初予算の歳入についての御質問の第1点目、市民税についての御質問でございますが、個人の市民税につきましては前年中の所得に対して課税されますところから、平成3年の人事院勧告等に伴う給与収入の伸びや資産譲渡の登記の状況等、また法人市民税につきましては、国の経済見通しや課税標準となります法人税の状況等を勘案いたしまして、積算したところでございます。

次に、第2点目の国有財産等所在市町村交付金の増についての御質問でございますが、平成3年度県において貸し付け資産の見直しを実施いたしましたところ、交付漏れが発見されたため、地方自治法に基づきまして5カ年度分の1,037万5,700円を合わせて平成4年度計上いたしましたものでございます。

次に第3点目、特別土地保有税につきまして平成3年度決算見込みと比較しての御質問でございますが、御承知のとおり特別土地保有税は、取得に対して課する特別土地保有税と保有に対して課します特別土地保有税がございます。平成4年度の予算計上に当たりましては、取得分について予測することが困難ですので、保有分についてのみ計上いたしましたところでございます。

次に第4点目、地方交付税の積算と当初予算計上額についての御質問でございますが、地方交付税の積算は国が策定いたしました平成4年度地方財政対策に示されました地方交付税総額等を参考に試算し、計上したところでございます。また、平成3年度の3月補正後の予算額と比較して当初予算計上額が低くなっておりますのは、普通交付税におきまして当初予算に15億9,000万円を計上してございますが、このほかに平成3年度と同様に臨時財政特別償還基金、地域福祉基金及び土地開発基金の財源が交付税措置される見込みであり、この額が当初予算計上時に明確でございませんので、交付額が確定いたします8月以降の補正予算により各基金に積み立てたいと考えてい

るためでございます。

さらに、特別交付税につきましても、当初予算に1億5,000万円を計上してございますが、このほかに年度途中での給与改定、国、県補助事業の採択の状況、災害その他緊急を要する事務事業等の追加財政需要の財源として留保しているためでございます。

次に第5点目、老人福祉費負担金についての御質問でございますが、これは老人ホーム入所措置扶助費に伴う国庫負担金でございます。歳入におきまして措置費の単価アップと措置人員4人分の増が見込まれますので、それに伴い歳入における国の負担金も増額となるものでございます。

次に、歳出についての第1点目、広報費についての御質問でございますが、広報等の発行経費につきましては印刷費が1,448万8,000円、また委託料といたしまして広報編集業務委託、グラフ誌製作委託、市民便利帳製作委託を合わせまして1,434万6,000円で、合計2,883万4,000円を計上いたしました。

次に、広報紙の刷新につきましては、広報紙は市と市民の太いパイプとして、また行政からの情報の発信手段として非常に大切であるため、明るく親しみのある紙面づくりを進めたいと考えております。

次に、第2点目、コミュニティ事業補助金について、その内容はどの御質問でございますが、内容といたしましては見物区及び上郷区の集会所新築補助金といたしまして各600万円、八幡区集会所の補修費補助金といたしまして11万円、コミュニティ連絡協議会が実施いたしますニシキゴイ放流事業の補助金といたしまして56万円、各地区コミュニティ委員会が主催いたします芸能祭や運動会等の補助金といたしまして45万円でございます。

次に第3点目、合併処理浄化槽設置事業についての御質問でございますが、補助対象基数の積算根拠につきましては、前年度実績を基準に補助対象を拡大したための増分を見込んで算出したものでございます。なお、今後対象基数の拡大につきましては随時考慮してまいります。また公共下水道整備事業との関連の御質問でございますが、補助対象地域につきましては公共下水道整備事業と整合を図り、定めております。

次に、第4点目の道路維持費、道路新設改良費につきまして、継続的に整備してまいりました市道8015号線及び市道1031号線改良工事等が平成3年度で完了したことにより減額となっております。しかし、住民からの要望の強い道路排水整備につきましては、平成3年度に比べ増額し、積極的に推進していく所存でございます。現在、議会及び各町内会等の要望によります道路排水整備に要する費用は約12億円、舗装新設に要する費用は約5,000万円でございます。また、舗装補修につきましては、道路排水整備を重点的に推進しながら、各路線ごとの実情に応じ舗装打ちかえや舗装補修により対応してまいりたいと考えております。

次に第5点目、粗大ごみ処理費についての御質問でございますが、安房郡市広域市町村圏事務組合粗大ごみ処理費負担金に関連しまして、鉄スクラップ引き取りの現状と今後の見通しについてとのことでございますが、本年1月から広域圏事務組合の粗大ごみ処理施設で発生いたします鉄スクラップについて、トン当たり2万円の引き取り手数料を支払い、業者に引き取ってもらっております。また、今後の見通しは、通産省の要請によりまして、本年2月19日社団法人日本鉄源協会の中に鉄スクラップの需給対策を検討するための冷鉄源需給問題特別部会が設置されまして、鉄スクラップの供給過剰と市況の急落の打開策を図ることになりました。現在の経済不況の中で、鉄鋼業界では減産が行われておりますので、しばらくの間このような状況で推移するものと考えております。このような状況が続いた場合、広域圏事務組合への負担金が増加していくのではないかとこのことでございますが、鉄スクラップの市況の悪化がこれ以上進めば、各市町村の負担金も増加すると考えますが、広域圏事務組合としてはストックしておく土地及び施設がない、このため従来どおり業者に引き取ってもらう予定とのことでございます。

なお、館山市といたしましては、全国市長会とか広域圏事務組合等に対する働きかけはどうしているのかとのことでございますが、千葉県市長会及び千葉県環境衛生促進協議会に対し国、県に対する要望の中に逆有償対策を早急に検討してほしい旨要望しております。

次に、保全公社運営費についての御質問でございますが、し尿収集業務を

行っております財団法人館山市環境保全公社の経営の安定化を図るため、平成3年度末で予想されます累積欠損 5,621万 2,000円の2分の1の 2,810万 6,000円を単年度補助し、3月議会に提案してございますし尿収集手数料値上げ幅を極力抑えようとするものでございます。

次に、御質問の第6、薪能委託料、第7、国際民族音楽フェスティバル、第8、体育協会とスポーツ少年団補助金、これらに関しましては教育長より答弁いたします。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

第6の薪能委託料の御質問でございますが、薪能は観光事業として過去7回開催してまいりましたんですが、観光行事としてはなじまない等の理由から本年度は休止いたしました。この間いろいろ検討してまいりましたんですが、来年度は館山市の貴重な文化的行事として、教育委員会が中心となりまして開催することを考えております。

今後、具体的な実施内容につきましては文化団体等と十分協議してまいりたいと、このように考えております。

次、7、国際民族音楽フェスティバルの御質問でございますが、国際民族音楽フェスティバルの位置づけとその内容はとの御質問でございますが、ことして第4回目を迎えますこの催しは、当初から新しい地域文化の創造とリゾート地館山にふさわしいイベントとして位置づけ、開催をしてまいりました。本年は、昨年までのフラメンコに加え新しいジャンルの舞台芸術グループを招いて、海洋性リゾートタウン館山を象徴する夏のビッグイベントとしたいと考えております。また、昨年までは藤原運動公園体育館を使用しておりましたが、県立文化ホール誘致決定に伴い、今後それをいかに生かしていくかということをアピールするためにも、会場を市民センターに移す予定でございます。

なお、具体的な実施内容につきましては、今後実行委員会で検討してまい

りたいと考えております。

8、体育協会とスポーツ少年団補助金の問題でございます。8点目、体育協会とスポーツ少年団補助金についての御質問でございますが、体育協会の補助金は714万1,000円でございます。平成元年度から県民体育大会の巡回開催によりまして、本年度は成田市、銚子市等北地区で開催されましたが、来年度は千葉市、市原市を主会場とする中央地区で開催されるため、交通費、宿泊費が減少しております。

また、スポーツ少年団の補助金は185万円であり、新年度はスポーツ少年団のリーダー制度の改正によりまして初級ジュニアスクールが免除されたため研修費が減っております。

今後ともスポーツ団体の育成、強化に努め、スポーツの振興と競技力の向上を図るためにできるだけ助成をしてまいりたいと考えております。

以上で終わります。

◎議長（福原 勤君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開いたします。

午後零時06分 休憩

午後1時04分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数21名、休憩前に引き続き会議を開きます。

辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） この予算につきましては、予算委員会でもって具体的な面についてはやるでしょうから、答弁漏れも非常に多いわけですけど、一々詰めるというわけにもまいりませんけれども、2～3についてちょっと聞いておきたいと思います。

基本姿勢については、山中議員もおっしゃられましたし、半澤市長のときも大分要望しておったわけですから、これはひとつ真剣に考えてもらいたいということで、これは結構でございます。

市民税について、歳入の市民税、これは予算委員会であろうし、それから2番目の国有財産の問題についても若干漏れて、予算委員会に移した

いと思います。

3番目の土地保有税についても、十分じゃありませんけれども、ひとつ予算委員会をお願いしたいと思います。

4番目の地方交付税については、私はこれは市長の姿勢ですからひとつきちんとしてもらいたいと思うんですけど、先ほどの答弁でまいりますと地方交付税の決定は8月以降になって、年度末になってきてそこで増額される見込みのものも幾つかあるので、それが増額になった場合には追加補正をしますと。追加補正したものについては、今までのように基金運用をしていきますと、こういう答弁であったわけです。基金として積み立てを要するということでございますけど、これは私は問題だと思いますよ。地方交付税というのは、これこれこういう事業に対してかかるんだと、これは当然国の経費として補てんしなきゃならないというもの、これを当初予算ではある程度何というんですか、一般財源からそれを補てんしているわけでございますから、そして国の方からはただ金が余ったから来るんじゃなくて、やはり財政需要額に基づいて地方交付税の申告するわけでございますから、それに基づいておりてくるわけですから、おりてきたとおりにそれ予算執行しなきゃならないんですよ。それを繰越金にしてやってしまうということは、それだけ事業をやらなくなっちゃうということになるんですよ。

これは、前も山中議員ですか、だれか日下議員ですか、何かそういう質問しましたが、交付税が増額になった分を積み立てたって、増額された趣旨とは関係なく積み立て運用されるという、これは私は市の中で一般生活費を圧迫することになるし、結果的にはですよ。ただ、基金の運用ができたということにはなるかしれないけど、そのところを私は大変であろうか知らないけど、地方交付税によって交付されたその事業、内容に対してすぐに追加補正をして、それで事業を遂行すると、それで繰越金出すことがいいというわけにはいかない。そのぐらいの小回りをできるようにしなきゃならないし、議会としてはそういう対応はいつでもできると思いますし、執行部の方でそういう対応しないので、むしろ歯がゆいというふうに思っているわけでございますけれども、ということが1点。

それからもう一つは、今の市長の答弁の中ですら、9月以降何と何の事業について交付税の対象ということでもってなればふえるかもわからないと。それはふえた時点でもって考えて、その余った額は基金にする、こういうことですから、これはわかっていればもうすぐに決定次第その事業に、交付金に対応したところの事業予算というものを組んで、やはり市民生活に速やかに対応する、こういうことができないかどうか。これはもう基本的な問題でございますから、その点については市のお考えを聞かせていただきたい。

それから、50ページの広報費でございますけど、質問ではしましたけど、1,434万というのは私も言っているわけで、わかるわけで、1,434万の内訳を教えてくださいということで言ったわけでございますから、これはグラフ誌と広報編集費と市民便利帳ということで、3つの項目ありますがこれに書いてないわけでございますから、どれがどれだけということを聞いているわけでもって、その答弁が漏れておりますので、ひとつこれを教えていただきたい。

それからもう一つは、95ページの合併処理槽の問題でございますけれども、公共下水道と整合性を図ってやるという、言葉としては整合性かわかりますけど、整合性がならないんじゃないですか、具体的に言って。今、北条とか館山地区やってますから、かなりの部面がやっている。あれですらさしあたって今の問題解決するためにやっているから、ある面じゃむだだなという気はするけれども、平成12年までのあと5～6年乃至7～8年の問題を放置するわけにいかないから、あそこでやったというふうに考えられるわけでございます。したがって、この面ではちょっと予算のむだ遣いになるかもわからない。もう平成12年になればあれ要らなくなっちゃうわけですから、終末処理場できてしまえば。だけど、しかしながらあれはかなり大がかりなものであって、現実の問題ですからこれは了承したわけでございますけど、合併槽は個人のものですから、個人のものが5年、6年先に、「はい要らない」というわけになった場合、その人今度は加入しないと言ったらえらい問題になっちゃいますから、合併槽をつくるところは相当な利用者ですよ。それで、市民の中ではやっぱりある程度ハイレベル、地域に影響力を持つ人

でないとなかなか入れにくいと思いますよ、ああいうものは。私のところなんか、文化生活できませんから合併槽つくってやるほど利用するあれもありませんし、そんなないわけですから、ある程度のそういったもののところでないといけないと思うんですけど、それがやっぱり5年、6年先にはもう要らなくなるという中でこれを整合性持たせるということは、言葉じゃいいかしれないけど、具体的な問題——これは清水市に下水道対策委員会で行ったとき、もう清水ではこれはもう念を押すようにこれは失敗だったよと、今それがあだになってますよというようなことを言われておるだけに、ただ整合性という言葉ではちょっと問題じゃないかと思うんですけど、そこら辺について具体的にですね。

それで、例えば北条とか館山とか、今回終末処理場かなりつくってますね、部分的に処理すると。あの地域は外すということなのか。あの地域外せば農村部やなんかの方にことし20基なんですけど、また30基ふやしてできる需要なり可能性があったのかどうなのか。農村部なんか行くと、合併槽つくって云々という問題は余りないんじゃないか。自家処理するということもあるだろうし、また地域的に公害その他は余り問題がないものですから、そう必要性はないんじゃないかという気がするわけですが、そこら辺の整合性というのはどう考えているのか。言葉の整合性というのは非常にいいんですけども、これは具体的な問題だものですから、そこら辺について、整合性の問題について聞きたい。

それからあと、道路については12億ぐらいということですが、ここら辺はやっぱり要望が出てるので、側溝等については——安房郡の中でもやっぱり館山の市道は90何%舗装されておるので、これは舗装率はいいということだけでも、1つは舗装の耐用年数を超えていてかなりがたが来ておっても、舗装してあるものは舗装ということになっているということ言われるし、またもう最近はかなり側溝をつけるのが当然だということでもって、かなり農村部なんかについては山の上の方まで側溝つきのものになっているけども、この側溝その他やりますと12億ぐらいということですから、これは12億ぐらいのもの——繰越金を大体5億ぐらい出すわけですから、この辺で

もってやはりこの対策を何とかして、2～3年計画ぐらいでもって物をやらないということになると問題じゃないかというふうに思うんですけども、この点についてひとつ聞かせていただきたい。

薪能と国際フェスティバルについては、これは私はそのものはいいと思うんですけども、ただ見通しがちょっと — 今までがだめだったということとか、教育委員会へ持って行ってこれがすぐどうかということについて、「はい、はい」と言うわけにはいかないだろうということと、それからやはりいいものだからやったらいいということだけれども、私は比較してあれですけども、これが薪能の方の補助金、また民族フェスティバルの500万ということが市の方でもっていいから出せるということであつたら、やはり体協の強化費なりそれからスポーツ少年団の — 今度ジュニアの研修がないということですけど、今度、指導者バンク制度もまだできてないわけですから、そういうものをつくったり、それから指導者の傷害補償の問題も、これは県下で幾つかの市では指導者の保険料は払うというようなこともやっておりますし、これはもうそういうものでもってかなり指導者なりそういうところにしわ寄せしているものがあるわけでございますから、そういうのを考えると体協の補助金が700万ぐらいで四苦八苦している中で、私は相当の予算というのは倍、3倍、4倍というものをやっぱり設けられるんじゃないか。それは財政がなくて困難だという中でもって、それで国際フェスティバルは500万、これは必要だからという形で、てんびんかけると問題があらうかと思うのです。私はどちらかというと体育の方について力を入れていますから、てんびんがどうしても体育の方に重くなろうかと思えますけど、文化を考えている人から見れば体育なんていうのは、半澤市長もよく言っていましたけれども、スポーツやるのはろくでなしだと、勉強しないやつらがやるんだなんていうような風潮があるというようなことを言われてましたけれども、そういうことで文化は非常に立派な人がやるんだから金かけてもいいなんて、こういう考えの人もあるようでございます、世の中には。私はそういうの反対でもって、文化なんていうのはろくなのはいないと、むしろスポーツやっているほどまじめな人間だと、世の中で使えるのはそっちの方が使えるんだ、こ

ういう考えですから考え方の違いかも知れませんが、ちょっとそのバランスがスポーツの方は弱過ぎる、こういうふうに思っておりますけども、この点についてひとつ今後体育協会のスポーツの振興について、これに見合ったバランスはどうかという点についてどう考えているか。

以上を再質問いたしまして、終わりたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 普通交付税でございますけども、今後補正に見込まれるということで留保しているという質問でございますが、今後予定されておりますのが臨時財政特例債の償還基金それから地域福祉基金及び土地開発基金の財源でございます、これが交付税措置されるというふうに見込まれるということでございますので、まだ当初予算では計上してない、こういうことでございますが、8月以降に確定するであろうということで、それ以降の補正予算で計上してまいりたい、こういうことでございます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 合併浄化槽の関係で、補助対象地域についての下水道との整合性の問題でございますけれども、御承知のとおり館山市の合併浄化槽の設置事業の補助金の交付要綱に基づいて現在合併浄化槽の設置者について補助しているわけでございますが、それにつきましてはやはり市長が定める――下水道法の関係もございまして、市長が定める者を除くというような規定があるわけでございます。したがって、この場合の整合というのは、平成11年に供用開始の予定になっております北条地区の98ヘクタールの第1期整備地域については、合併浄化槽の補助を二重投資というような観点からいたさないというような意味でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） ただいまの文書広報費の広報関係の予算の内訳ということでございますけども、一応平成4年度の予算説明資料の方の25ページに、これは委託費のみでございせんけども、入っておりまして、グラフ誌製作委託料として987万、広報紙発行事業として1,746万4,000円、

市民便利帳作成委託料として 150万ということで計上してございます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えします。

舗装の耐用年数ということでございますけども、この舗装の耐用年数はございません。車両の交通の多少によって道路が傷むわけでございますけども、その傷みの激しいところから舗装補修を実施しておるわけでございます。それで、市といたしましてなるべく住民に我慢していただくわけでございますけれども、それは未舗装がまだ6%あるということでございます。その現実を踏まえながら、なるべく未舗装の舗装化を努めておるわけでございます。

側溝については、車両交通の安全性であるとか、それから雑排水の処理、それから雨水対策などでございますけども、先ほども市長が答弁いたしましたとおり、12億もあるわけでございます。そうしますと3億ずつやっても4年ということなんですけども、そのほかに毎年皆様の要望が1億5,000万ぐらいあるわけです。当分5年、10年はこの側溝の問題は続くかなというふうに心得ておりますけども、いずれにしましてもなるべく予算をいただいて住民の要望を満足したいと思います。そんなことでよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 私は、基本的には文化に携わる人、文化をたしなむ人、文化を行う人とスポーツをたしなむ人、スポーツを愛する人、そういう方々は全く同じ立場であって、いずれにしても極めて重大な役割をなしておる方だと私は考えております。

御質問の体育協会の予算が減ったのではないか、あるいはスポーツ少年団の予算が減ったんじゃないかとおっしゃいますけども、これは減らしたんじゃないございまして、たまたま旅費が減ったとか、あるいはそういう行事が減ったとかということによった減でございまして、決してこの両団体を軽視しているわけではございません。

なお、体育協会につきましては、現在各種目別にどういう行事をやるかと

いうことで検討を加えております。その検討の内容によりましては、また再来年度等の予算に大いにその辺加味していきたいと、このように考えておりまして、我々は決してスポーツを軽視するものではございません。以上御了解いただきたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。

日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 通告をいたさないで大変恐縮ですけれども、事前には質問要綱、こういうことを御質疑いたしたいということで申し述べてありますので、ひとつ御寛容願いたいと思います。さらに、本議会は予算議会でありますので、執行部御当局はもう十分な御準備をなさっておるというふうに受け取りますので、ひとつ申しわけございませんが、また質問もごく絞ってウエルネスリゾートパーク問題のみについて基本的な問題を聞いておきたい、細かいことは特別委員会もございますし、その辺に譲るということでお聞きいたしたいと思います。

このウエルネスリゾートパークの問題は、私も通告でいたささせていただいた後、辻田、神田及び秋山各議員もほぼ同じ問題についてお聞きいたしておるんで、相当重要な問題であるというふうに受けとめます。多少重複するかもしれませんが、お聞きいたしたい第1点はこのウエルネスリゾートパーク問題については平成元年度で当初予算で1,200万を業務委託して、つまりウエルネスリゾートパーク基本計画について業務委託をいたし、9月に追加の1,200万追加補正いたして、計2,400万をかけましてこの整備基本計画をつくった。当然これはもう終わっておりますので、そこでこれは秋山議員もお聞きしたんでございますけれど、改めてこのウエルネスリゾートパークについての整備基本計画書なるものがあるかどうか、言葉の、用語が「整備基本計画」ですよ、そういうものがあるかどうか、お聞きいたしたい、これが第1点であります。

第2点目としまして、このウェルネスリゾートパークは元年の9月補正で800万ですかの国庫補助をいただいて、これ予算の上でやりますですね。市御当局の御説明では、要するに国からの予算も出たんでやったんですよということでございますが、以降2年、3年度についてはその補助金なるものは一体どうなったのかということをお聞きいたしたい、これが第2点でございます。

それと、もう一点は予算書の126ページにある都市マスタープラン策定委託ですか、これが計上されておりますが、この説明書の15ページによりますとマスタープランをつくるということで、括弧債務負担行為となっておりますので、これがいかなる意味をするものなのか、お聞きいたしたい。

以上3点をひとつよろしくお願い申し上げます。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） まず最初の1点の整備基本計画でございますが、手元でございます。地域振興課でございます。

それから、2点目の9月補正1,200万加えて2,400万、そして国庫補助800万ということは確かにこの時点でいただいております。それで、2年、3年度はいかがということですが、これはいただいております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 都市マスタープランについてお答えいたします。

これは、将来の館山市の変動を予想いたしましてつくるわけでございますけれども、都市の将来像であるとか、都市の土地の利用基本方針、都市の施設整備の基本方針であるとか、法定都市計画の概略だとか、そういったものを踏まえまして、将来に禍根のないように館山市の将来像を決めようとして平成3年度、平成4年度に予算化した事業でございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） その第1点ですけれども、地域振興課にあるそのタイトル名を教えてください。

次に第2点、補助をいただいてないということですが、通常のは、今般も千葉県で文化ホールについて調査費がついたということですが、通常のこういう補助金関係は最初に調査費がつくと次に事業費関連のものがついてくるというのが常態だと思うんですけども、ではなぜこのウエルネスリゾートパークについて2年度以降に——たった単年度単発で国庫補助がついて、2年は何もつかないのか、その御説明をいただきたい。

3点目のマスタープランについては、ウエルネスリゾートパークとの絡みがあるのかないのか。あればどの辺であるのか、その辺をお聞きいたしたい。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） まず第1点目の関係でございますが、ウエルネスリゾートパーク基本計画書でございます。それで、この中から……

◎18番（日下君敏君） 見せていただけませんか。

◎経済部長（脇田元始君） ちょっと手元にありませんで、じゃ後ほど用意します。

（発言する者あり）

◎経済部長（脇田元始君） いえ、皆様に配付するだけのちょっと部数ございませんで、その本の中からお手元でございますウエルネスリゾートパーク計画調査報告書を抜粋したものでございます。

◎18番（日下君敏君） もう一度タイトル言ってください。

◎経済部長（脇田元始君） ウエルネスリゾートパーク計画調査報告書でございます。

（発言する者あり）

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） それから2,400万、建設省補助800万いただきまして、このリゾートパークの整備基本計画策定業務を日本公園緑地協会に委託しました、この委託費用に使用したわけでございます。したがって、これが終了いたしまして、2年、3年はいただいております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 都市マスタープランについては平成３年度と４年度やっておるわけでございますけど、平成３年度についてはこの間もちょっと議会で御説明したとおり実態把握をしております。この中で、当然このウエルネスの現状はどうかということを担当課から事情を聴取しておるわけです。そして、それがどうあるべきかということについても、このマスタープランの中に反映されるというふうに考えております。当然ここにはこういうものを計画してありますよということは、事情聴取の中に入っておると考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎１８番（日下君敏君） また細かいことは次の機会にお聞きますが、ただいま経済部長が「ある」と言ったそのタイトル名は計画調査報告書、館山市が予算で計上して業務委託いたしたものは整備基本計画書、用語が違うというのは単純に言えばそれがそうだということなんでしょうけれども、わざわざ議会の承認を得て整備基本計画を業務委託いたしたというのに、なぜ計画調査報告書なるタイトル名になったのか。内容が同じだではちょっと済まないと思うんですね。この基本計画というのと計画調査報告書では、相当我々が聞く語感でさえちょっと違いますね。では、なぜそういうことに相なったのか。これが基本計画であるというなら基本計画であるということによってくれないといかんのではないか。補助については、ちょっとまたこれは２、３に絡みますので、補助金がなぜ単年度で終わったかということはとめておきますけれども、これはそれで結構です。

もし、この第３点目のウエルネスリゾートパークについてもこのマスタープランの中で業務委託分として計画を練るということになると、当初練ってあったこの調査——今ある計画調査報告書との絡みですね。これはどうなるのか。屋上屋を架することにならないか、あるいは今までの最初の計画というのは相当概念的なものであったのかということの絡みであります。

なお、これでおしまいになりますので、もう一言言いたいんですが、どう

もこのウエルネスリゾートパークについては今までの御質疑を聞いておりますと、御議論を聞いておりますと、用地取得というふうに書いてあったが、次の年度は用地購入になっておったと。その御答弁は、いやこれは同じものだ。同じならば用語を一々変えるということは、簡単に申し上げますと人心を惑わすというか、同じような用語は毎年使うべきなんですね。それをあたかも事業が違ったかというような用語を使うということはいかなものかと存ずるわけでございますが、その辺の御回答もいただければありがたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） マスタープランにこのウエルネスリゾートパークが反映されるということは、例えば南たてやまがここにありますが、こういう計画があります。片一方の太陽海岸平砂浦の計画がここにありますが、その他いろいろな計画をこのウエルネスについても事情聴取して、それでそういったことからここにはこういう道路があるべきだとか、ここにはこういう施設があるべきだということで、このウエルネスを委託しておることはございません。ただ、そういった事情を全部踏まえながら館山市全体の総合的なものがこうあるべきだという提言をいただこうと思っております。ですから、二重に発注はしてございません。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 正式名称を申し上げます。ウエルネスリゾートパーク計画調査報告書でございます。これに基づきまして、この中からウエルネス部分を抜粋してお手元に渡したのが計画調査報告書概要書でございます。

それから、基本計画での購入、取得に関しましては、先般もお答えいたしましたんですが、特別な意味はございません。ただ、紛らわしいということにつきましては大変申しわけなく思っています。

以上でございます。

◎18番（日下君敏君） 答弁漏れでいいですか。私が聞いたのは、用語的

に基本計画というものでならず、何でもこういうふうになったのかと、基本計画。これが整備基本計画書ですね。じゃ、なぜこういう整備基本計画という用語を使わなかったのか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） このウエルネスリゾートパーク計画調査報告書、これは緑地協会、先ほど申し上げましたが、この中では海洋性リゾートタウンといたしまして民活でやってます南たてやま、それから平砂浦海岸計画、これらもすべて入っております。ウエルネスも入っております。したがって、リゾート計画につきましては過去に皆様にも御説明申し上げてございます。したがって、ウエルネスの部分だけこの報告書の中から抜粋しました概要書としてお配りしたと、こういう経緯でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 他に御質疑はありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております議案第1号乃至議案第8号平成4年度各会計予算につきましては、10人の委員をもって構成する予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上審査することにいたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました予算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 番議員 秋山 光章君 | 2 番議員 増田 基彦君 |
| 7 番議員 鈴木 順子君 | 8 番議員 永井 龍平君 |
| 10 番議員 庄司二三男君 | 11 番議員 山崎 雅己君 |
| 15 番議員 山中金治郎君 | 17 番議員 鈴木 忠夫君 |

18番議員 日下 君敏君

25番議員 流山源次郎君

以上、10名を指名いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

ただいま選任されました予算審査特別委員会委員の方々は後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承願います。

延 会 午後1時38分

◎議長(福原 勤君) お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明3月17日から24日まで委員会での議案審査のため休会、次会は3月25日午前10時開会といたします。その議事は、議案第1号乃至議案第43号にかかわる各委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際、申し上げます。各議案に対する討論通告の締め切りは3月25日午前9時でありますので、申し添えます。

御苦労さまでした。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第1号乃至議案第8号

1 予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

1 発言の取り消し